

CAGLIERO¹¹

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.86 - 2016年2月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



サレジオの宣教ボランティア

い つくしみの聖なる扉はすでに開かれました。扉を開かれた無原罪の聖マリアの祭日の説教で、フランシスコ教皇は「宣教の旅」について、また「宣教に駆り立てる強い促し」について語りました。まさにそのために、聖なる扉は開かれます：神の民が聖性において成長し、より宣教するものとなることによって新たに生まれるように。同時に、総長は、聖霊の冒険に乗り出すようにと今年のスtrenナをもって勧めながら、私たちの心を燃え立たせました。そして、み心の中に大切にされる、すべての民に福音を告げるといふこの冒険において、聖霊ご自身が私たちを導くのでなければなりません。したがってそれは、福音宣教の冒険以外ではありえません。

聖なる扉とスtrenナ2016：神にすべてを新たにさせていただく素晴らしい機会です。そのために、実り豊かな年をお祈り申し上げます！

J. Basanes

宣教顧問
ギジェルモ・バサニェス神父



ド ン・ボスコがオラトリオでもした宣教の火は、今日、サレジオの家のあるところで、人生において実現すべき大いなる理想が若者たちに差し出されるとき、若者たちの惜しみない心を、連帯と宣教の魅惑的なプロジェクトに向ける機会が差し出されるとき、燃え続けています。これが、ボランティア活動の魂です。

近年、特に第24回総会后、サレジオ会は、ボランティア活動によってもたらされる司牧、教育、召命、宣教のための大きな可能性について考察してきました。そのため、青少年司牧と宣教の両部門は、若者のため、会のため、この世界を変えるためのこの素晴らしい贈りものの発展を、各管区で促進しています。

一般社会でも、またサレジオのミッションにおいても、さまざまな種類のボランティア活動があります：ボランティア活動を行う人の教育や、取り組み方の成長に重点を置くものもあります；社会的あるいは宣教的次元に力を入れるものもあります。ボランティア活動にはさまざまな形があるのです。短期のものでありながら体系的な取り組みが行われ、非常に内容の濃い体験をするものもあれば、長期的なものもあります。また、ボランティアは自分の国であることも、海外であることも可能です。

ほかの形の価値を否定することなく言えるのは、サレジオの精神に従うボランティア活動は、**サレジオ宣教ボランティア活動**です：

- ◆ボランティア活動：これは、協力やそのほかの教育的、人道的な働きと混同すべきではありません。ボランティア活動は、能力と養成を求められる、信徒・社会人の次元と専門性をもって、自由に、連帯の行いとして、無償で行われます。
- ◆宣教：これは、可能な場合、なくてはならない大切なことではありながら、福音を言葉に表して告知させること、あるいは直接的な司牧活動だけに焦点を合わせるといふ意味ではありません。宣教という言葉は、ボランティア活動の動機と生活のあかしを表現します。キリストへの信仰に動かされるボランティアは、専門的な奉仕を通して宣教のプロセスに参加します。実際、この奉仕は、若者らしい聖性の成長のために有効な歩みです。

◆サレジオ：これは私たちのボランティア活動のカリスマ的特徴です：若者の世界や教育に寄り添うこと；オラトリオの心と家庭的精神に生かされ、一人ひとりが教育司牧計画の中で、教育共同体の一員となります。

サレジオ・ミッションにおけるボランティア活動の豊かさは、司牧奉仕に新たにいのちを与え、新たな熱意を目覚めさせ、新たな地平を開きます。実際、ボランティア活動は、成長のため、全人的養成、個人の生き方の計画の実現、召命の発見のための、恵まれた手段となります。実に、サレジオ宣教ボランティア活動は、サレジオ・ミッションのために貴重で具体的な助けであり、若者の信仰教育における有効な提案になるのです。

マルタン・ラサルト神父, SDB



「長く白い雲の国」で移民と共に

先

住民族マオリの人々がアオテアロア、「長く白い雲の国」と呼ぶニュージーランドは、多くの移民の第二のふるさとでもあります。サレジオ会は2009年にニュージーランドに来ました。2010年、私たちはマシーの聖パウロ教会を任せられ、2013年には、アヴォンデールの無原罪の御宿り教会も任せられました。4人のサレジオ会員がこの二つの小教区で働きながら、一つの共同体に暮らしています。

ヨーロッパ人やニュージーランドで生まれ育った人々のほか、教会の信徒の多くはサモア、トンガ、インド、ビルマ、フィリピン、アフリカから来た人々です。この移民の人々は、強い信仰、カトリック的な伝統や価値観をたずさえて来て、新しい国、文化の中でそれを生きようとしています。中には、ニュージーランドにたどり着くまで多くの痛みと苦しみを経験しなければならなかった難民の人々もいます。そのような経験をしながらも、自分の信仰を分かち合いたいと強く願っています。

私たちの小教区は、移民の人々が祖国からたずさえてきた豊かな信仰によって富んだものになり、支えられています。それぞれの伝統を大切に、信仰を育み、より広い共同体と分かち合うよう、私たちサレジオ会員は信徒の皆さんを促しています。

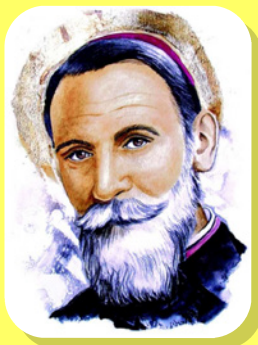
それぞれの民族グループは、子どもたちのために要理教育を行うよう奨励されています。共同体として信仰を学び、成長するため、友人関係を保つため、新しい環境で大人へと成長しながらアイデンティティを持ち続けるため、助けになるからです。

子どもたちの入信の秘跡の準備は、私たちが小教区で提供する、なくてはならない大切な奉仕です。子どもたちが勉強しているあいだ、親も信仰について学びます。このことは、子どもの両親や若い家族が自分たちの信仰、教会の一員としての意識を再発見する助けになっています。役所に届けを出しただけで式を挙げていなかった夫婦が、教会で婚姻の秘跡を受けたいと申し出ることもあります。人々の信仰の旅路を共に歩むことは、すばらしい体験です。それは実に豊かな、神のご計画に開かれた旅路です。

私たちの小教区は、さまざまな方法で第一次福音宣教を促進しています。「カトリックのこと教えて」というタペの集いは、イエスを知らない人々に会えるすばらしい場になっています。私たちはまた、すべての人と信仰を分かち合うことを信徒に積極的に奨励しています。カフェのような場所ですれ違った人とあいさつを交わし知り合った後で、人生や信仰について対話が始まったという話を信徒たちから聞いています。人生において復活された主を体験した喜びにあふれる人が、温かく迎え、招くというアプローチは、イエス・キリストについて知りたいという関心を人々の中に呼び覚ましているのです！



インド出身、ニュージーランドの宣教師
マシュー・ヴァダックヴェットウヴァツィイル神父



サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 ピエル・ルイジ・カメローニ神父

中国におけるサレジオ会の創設者、サレジオ会殉教者の初穂、**聖ルイジ・ヴェルシリア** (1873-1930) は、その死の数週間前、フィレンツェの女子カルメル会の目上にあてた最後の手紙に次のように書いています。「……私たちの心を引き上げましょう、私たち自身のことをもっと忘れましょう、そしてもっと神について語りましょう。神によりよく仕える方法や、よりよく神をお慰めするにはどうしたらよいか、神のために靈魂を勝ち取らなければならないこと、その方法についてです。姉妹方、皆さんは、イエスの愛の機微について私たちによりたやすく語りかけることができるでしょう。私たちは、神から遠く離れて生きる実に多くの靈魂の悲惨について、そして彼らを神へと導く必要性について皆さんに語りかけることができるでしょう。私たちは神を愛するよう引き上げられるのを感じ、皆さんはより熱意に駆り立てられるのを感じるでしょう。」



サレジオ会の宣教の意向

南アジアのキリスト教諸宗派の分裂が終わりますように。
キリストの唯一のみ顔が、人々に明かされるために。

この地域のキリスト教の存在はごく小さな少数派であるため、キリスト教一致の預言は緊急に必要です。すなわち、キリストとキリストの福音に従う人びとの間の兄弟愛の預言です。若者たちは、イエスに従う人びとの間の交わりと、互いに無条件にゆるし合うこのあかしに、特に心を向け、敏感です。このことはまた、さまざまな宗教に属する人びとや団体の間に真の友情が生まれるのを促進することにもなります。

